

# 「新たな歴史館の創造をめざしてー長野県立歴史館中長期目標(2009～2018年)」 に関わる達成度について(自己評価)

2019.12.28  
中長期ビジョン委員会

## I 自己評価の趣旨

- ・ 2009年7月策定の「新たな歴史館の創造をめざしてー長野県立歴史館中長期目標(2009～2018年)」に関わる基本目標の達成度等について総括を行う。
- ・ 2018年までの総括評価を踏まえ、2019年以降に当館が目標とすべき新たな中長期ビジョンの策定に取り掛かる。

### ◎基本目標(2009年度設定)

- 1.長野県民の歴史遺産を子孫に継承するための取組をします。
- 2.未来を映す歴史知識の泉としての役割を果たします。
- 3.楽しむ場・憩いの場・交流の場としての役割を果たします。
- 4.歴史情報センターとしての機能を果たします。

### ◎ 評価(各年実施している評価区分)

評価区分は、AからDの4段階で示す。

評価の区分	内 容
A	目標を上回る成果をあげた
B	ほぼ目標どおり達成できた
C	目標に及ばず、活動計画を一部達成できなかった
D	目標に遠く及ばず、活動計画自体の見直しが必要

## II 自己評価 (以下、基本目標1～4に対する評価)

### 1 長野県民の歴史遺産を子孫に継承するための取り組みをします。

(1)埋蔵文化財(考古資料)・文献史料(行政文書、古文書等)・歴史資料等(以下「史資料」と略記)を収集・整理・保存し、調査研究を行います。

#### ア)長野県の歴史に関する史資料の調査研究

長野県の歴史を明らかにするために、史資料に関する調査研究を行い、その歴史的価値を明らかにします。また、後世に伝えるために史資料の所在や現状把握に努めます。

**評価： B**

**成果・課題等**

- ・ 企画展示会等を通じて、史資料の所在把握などを進めている。それ以外に計画的な調査研究は十分に実施できていない。

#### イ)史資料の収集、整理、保存

長野県の歴史を明らかにするために必要な史資料を収集・整理し修復して、適切な環境のもとで保存します。特に、当館が公文書館の機能を有していることから、歴史公文書等の収集に留意します。また史資料の滅失、県外への流出・散逸を防ぐため必要な保存措置を講じ、重要な流出資料については購入するなど、特別の配慮を払います。

**評価： B**

**成果・課題等**

- ・ 県外流失史料(特に文献)の情報を速やかにキャッチし購入につなげている。
- ・ 文化財・生涯学習課と調整しながら、文書を作成した各課の廃棄予定行政文書等の事前選別を行い、歴史的資料として移管手続きを遂行している。
- ・ 第一収蔵庫が満杯状態であり、長野県埋蔵文化財センターからの移管させるべき資料を受け

入れることができていない。

- ・整理や保存については、人員配置・予算相応の成果となっている(文献史料・考古資料)。
- ・大型の資料の保存スペースがないため、無住の寺の仏像などの寄託対応が今後の課題。
- ・展示(歴史)資料については、系統的な収集ができていない。
- ・寄託・寄贈要望に応えた場当たりの対応に留まる。鉄道関係資料など、入手したものの整理に手がついていない資料がある。

## (2) 史資料の保護・活用に取り組み、保護思想を啓発します。

### ア) 文化財の調査研究

当館は史資料を県民のかけがえのない文化財・歴史遺産として位置づけ、その保存活用、調査研究をおこなう機関です。展示や普及活動を円滑に進めるためにも、館蔵史資料以外の県内の文化財の調査研究を行います。

**評価： B**

#### 成果・課題等

- ・館外資料調査を行う人員配置となっていない。
- ・文献資料に関しては、歴史館資料調査員により県下 16 地区の史資料の調査を行っている。

### イ) 文化財の公開、活用

市町村、県、国の指定文化財等について、県立の文化財公開機関としての役割を果たします。

**評価： B**

#### 成果・課題等

- ・企画展などを通して公開・活用を行っている。
- ・巡回展で資料を借用・移動するにあたり、美術専用車を使用できず公用車やレンタトラックで対応していることから、借用できない資料がある。

### ウ) 史資料の保存(調査、取り扱い、保存処理)に関する講習会、研修会の開催

県立の博物館、公文書館、文化財保存機関・研究機関として市町村、県内博物館等への支援、助言を行います。

**評価： B**

#### 成果・課題等

- ・県博物館協議会の研修会を実施。また県内各館からの個別の問い合わせ等に対応。
- ・保存処理研修では市町村教委や博物館からの要望をもとに実施し、毎年好評。
- ・長野県史料保存活用連絡協議会(県史協)(事務局:歴史館)では、年間 3 回の講座を設け、資料の取り扱い講習や情報提供などを行っている。

### エ) 埋蔵文化財保護に関する市町村への支援

遺跡の保護、発掘調査・研究、研修などに関し支援します。

**評価： B**

#### 成果・課題等

- ・研究会や研修会で市町村教委や博物館と連携・協力を進めているが、少ない人員配置で可能な範囲の努力(城郭・城下町研究会、黒曜石研究会、保存処理講習会等)を行っている。

### オ) 歴史公文書に関する県、市町村職員等への支援

県、市町村の歴史公文書に関し支援します。

**評価： A**

#### 成果・課題等

- ・市町村の歴史的な公文書の取扱や保存について支援を行ってきた。また、市町村の公文書館準備室職員の書庫視察、相談等に対応している。

## 2 未来を映す歴史知識の泉としての役割を果たします。

歴史知識とは、史資料をとおして先人の生活、生き方、知恵に学び、そこから未来を切り開く示唆を発見していく営みの源泉です。歴史館は、史資料の調査研究・収集整理保存という基礎的な活動を行いながら、さらに長野県の歴史を明らかにすることを通じて、その成果を展示や講座・講演会などの普及活動を通じて県民に広め、そこから未来への展望を得られるべく積極的に活動します。

### (1) 長野県の歴史を明らかにし、その成果を普及します。

#### ア) 専門分野の協力による総合調査の実施

埋蔵文化財（考古資料）、文献史料、総合情報の3部門及び館外研究者等の協力による長野県の歴史に関する総合的な研究を行います。

**評価： B**

#### 成果・課題等

- ・城下町研究会、黒曜石文化研究会、土偶研究会を立ち上げ、館外研究者等との共同研究を実施。今後、総合的な成果の発表が望まれる。
- ・長野県絵図・地図共同研究事業として、平成26年から平成29年にかけて県立歴史館が所蔵する絵図・地図を長野県測量設計業協会の会員とともに総合的研究を行った。

#### イ) 県内外の研究団体、研究者等と協力した調査研究の実施

県内外の地方史研究団体、郷土史・地方史研究者、市町村教育委員会、博物館、大学等と協力した調査研究を実施します。

**評価： A**

#### 成果・課題等

- ・黒曜石研究会などを実施。
- ・長野県考古学会と共催で考古学セミナーを開催し、研究の連携をはかっている。
- ・信濃史学会・信州近世史セミナーと毎年「近世史セミナー」を実施し研究を深めている。

#### ウ) 長野県史の編纂の調査、準備

長野県によって推進された戦前までを範囲とする「長野県史」を受け継いで、その後の長野県の歩みを明らかにする「長野県現代史」をはじめとする県史編纂の準備をします。

**評価： B**

#### 成果・課題等

- ・担当可能な人員配置がなく、手つかずの状況。
- ・現代史を知るために継続的に史料の受入、整理作業を実施している。また長野県史等写真フィルム保存業務委託を継続的に実施している。

#### エ) 常設展示、企画展示等の充実

長野県の歴史を紹介する常設展示について改善をはかり、総合調査の成果を生かした総合展示を実現します。また、県民のニーズに沿ったテーマでの企画展を実施します。

**評価： A**

#### 成果・課題等

- ・常設展示室は、経年劣化や来館者の声などを採り入れ部分的な改変を行ってきた。開館25年間の各分野の研究や展示内容・技術の進展に対応したりリニューアルに至っていない。
- ・県民のニーズに沿った企画展の実施に心がけて、観覧者の増加につながっている。
- ・巡回展を開催するにあたり、市町村教委からの要望等もふまえ企画内容を検討。
- ・企画展示室の規模が小さく、より充実した企画展を開催することができない状況にある。

### (2) 県民の生涯学習を支援します。

#### ア) 展示解説の実施

常設展示、企画展示など、展示を企画した学芸員が、展示のねらいや内容についてわかりやすく解説している。

**評価： A**

**成果・課題等**

- ・学校・団体に関しては可能な限り対応してきており、おおむね好評である。また、個別の質問についても対応している。一般の来館者に対しては日・祝日のボランティア解説を実施し、定着してきた。
- ・個人の来館者に対しては、音声ガイドやスマートホンなどの端末で気軽に解説が聞けるようなシステム導入が必要と考えられる。
- ・巡回展は、展示資料全体に関わるテーマを設定し、考古資料を扱いながら現代社会に通じる解説に心がけている。

#### イ)講演会、自主講座、地域セミナー等の開催

企画展講演会、古文書講座、考古学講座、やさしい信濃の歴史講座などの講座、県内各地に出かけておこなう地域セミナーなどを開催します。

**評価： A**

**成果・課題等**

- ・考古学講座や遺跡探訪会については、県民からの要望を参考にテーマ設定を行っている。また巡回展関連の講座では、巡回館の意図に即した講座内容としている。
- ・古文書講座では 50 人定員の 5 講座を設けているが、満足の評価をいただいている。また、ティーンズ古文書講座を平成 29 年から開催し好評を得ている。
- ・講演会にはできる限り対応している。質の低下につながらないように、調整していくことも必要であると思われる。

#### ウ)各種出版物の発行

展示解説、ブックレット、研究紀要、資料目録などを発行します。

**評価： B**

**成果・課題等**

- ・当館発行の刊行物に加え、一般書籍の執筆や刊行に拡大し、普及活動には成果がある。
- ・来年度以降のブックレットの編集テーマについては検討中。
- ・2018 年度、当館の公文書館機能作画で紹介する広報誌を制作し配布をはじめた。

#### エ)体験学習の実施

各種体験学習を開発し、実施します。

**評価： A**

**成果・課題等**

- ・従来から行ってきた勾玉作りに加え、プラ板やリース作りなど手軽に親しめる体験学習のレパートリーを増やしてきた。楽しい企画は増えたが、その先、歴史学習にどのようなつながっていくかが課題。
- ・バックヤード解説については、日々どのような解説を行うか、新たな情報があれば、その成果を反映できるよう課員で検討している。
- ・博物館実習、職場体験学習のための教材として「保存箱の製作方法」を作画し、わかりやすいマニュアルを新たに制作し、体験作業に生かしている。

#### オ)歴史館出前講座・移動教室の実施

学校、公民館等への出前講座、移動教室を実施します。

**評価： A**

**成果・課題等**

- ・「お出かけ歴史館」を立ち上げ、毎年順調に回数を増やしてきている。人員と日程の確保が

限界に来ており、事業を拡大するには増員などの必要性がある。

- ・松代公民館海津大学園「郷土史料」の講師や各種施設での近現代史講座を実施している。

#### カ) 県民参加型の展示の実施

歴史館の活動に県民が積極的に参加できるしくみをつくるなかで、職員と共同でおこなう展示を実施します。

**評価： B**

**成果・課題等**

- ・古文書愛好会による新出史料の翻刻を通して、歴史の掘り起こしを実践している。
- ・県民参加型の意味や中身を館職員で共有し、実践していくことが重要である。

### (3) 学校教育を支援します。

#### ア) 学校教育への協力、連携

小中高校、特別支援学校等の総合的学習や社会科授業の一環として歴史館及び所蔵史料を積極的に活用するほか、博物館実習をはじめとする大学教育との連携もはかります。

**評価： A**

**成果・課題等**

- ・希望のあった小・中・高校・特別支援学校等の総合学習や社会科授業に屋代木簡ほかを活用してもらってきた。活用できそうな教材の紹介とその教材を用いた指導事例を紹介していきたい。毎年、博物館実習などを実施している。
- ・教材として、行政文書類の保存業務をマニュアル化（作画してわかりやすく）し、実習作業の効率化を進めている。

#### イ) 出前授業の実施

学校からの依頼に応じて学校での授業を行うために学芸員を派遣します

**評価： B**

**成果・課題等**

- ・「お出かけ歴史館」事業を立ち上げ、実施。これ以上事業を広げるには人員確保が必要。
- ・長野西高校、市立長野高校等で事業を担当し、新たな地域連携に貢献している。

#### ウ) 職場体験の受け入れ

中学、高校、大学での職場体験事業（インターンシップ）の受け入れを行い、生徒に博物館業務を体験してもらい、博物館・文書館への認識を深めます。

**評価： A**

**成果・課題等**

- ・希望のあった学校ほぼ全部に対応、中学校の職場体験は毎年増加傾向にある。免許更新講習も受入、博学連携が進んできている。
- ・文献史料課では、保存箱の製作や、閲覧請求の業務を体験してもらうことで歴史館が持つ文書館機能の理解を進めている。

#### エ) 教員研修の実施、協力

県教育委員会等の依頼により、教員対象の研修会を行い、博学連携を深めます。

**評価： A**

**成果・課題等**

- ・毎年実施しており、定着してきている。
- ・教員対象の研修会を受け入れ、業務を体験していただいている。また教育センター研修として、歴史館の資料等を用いた「地域素材の教材化」などを行っている。

### (4) 歴史情報を提供します。

#### ア) 館蔵資料の閲覧

考古資料、文献史料、図書資料等が閲覧できるようにします。

**評価: A**

**成果・課題等**

- ・ 図書は閲覧できるよう受入・データ化を進めている。専門書を購入するだけの予算確保が問題。また、人員の確保が必要。さらに収納スペースが限界に近づいている。
- ・ 土器1点の申請であろうと、石器数千点の申請であろうと、閲覧者の要望に即した対応を行っている。須坂の収蔵庫に収納となった場合、スムーズな閲覧対応が可能か不安がある。
- ・ 文献史料を整理し、インターネット上に目録のデータベースを公開している。県民の事前申請や調査に役立っている。

#### イ) 常設展示室での情報機器による提供

メイン展示、周辺展示を補い、必要な歴史情報を提供できるようにします。

**評価: C**

**成果・課題等**

- ・ 展示室での情報提供は人に頼っている状態である。スマホなどデジタル端末を利用できるようなシステム開発が必要である。開館当時からの数少ない機器が稼働、更新と質量の充実が必要である。

#### ウ) レファレンスへの対応

県民等からの質問に的確に対応し、歴史情報を提供します。

**評価: B**

**成果・課題等**

- ・ メール・電話・来訪、すべてのレファレンスに的確に対応してきた。

#### エ) 歴史情報提供システムの整備

館蔵資料情報、歴史情報等をデータベース化した歴史情報提供できるシステムを整備します。

**評価: B**

**成果・課題等**

- ・ 常設展示の解説シートなど、ホームページからダウンロードできるようにしている。

#### オ) ホームページの充実

歴史情報提供の有力な手段の一つとしてのホームページを充実させます。

**評価: B**

**成果・課題等**

- ・ ブログやフェイスブックの開設など、徐々に充実を図ってきている。

### 3 楽しむ場・憩いの場・交流の場としての役割を果たします。

歴史館は、県民が伝え、残してきた歴史遺産を保存し、後世に伝える役割を持っていますが、また歴史館を訪れ、さまざまな行事に参加する人びとにとって、その生涯学習に資するとともに、楽しみ、憩える場であり、多くの人びとが交流できる場でありたいと思います。

#### (1) 参加して楽しめる場、憩える場とします。

##### ア) 憩える場としての環境整備

観覧の合間に休息できる空間や施設を整備します。

**評価: C**

**成果・課題等**

- ・ 常設展示室観覧の後半、近現代に休めるスペースがない。
- ・ 館内全体として、休息がとれる場所が少ない。また小学校見学において、雨天の場合の昼食をとるに適した空間がない。講堂や第一研修室等で対応しているのが実状。トイレの洋式化

の要望も多い。

- ・子ども親子で遊びながら、歴史を体験し、「学ぶ場」と同時に、「楽しく憩える場」が必要である。

#### イ) 屋外展示の充実

憩いの空間となる屋外展示を実現します。

**評価： C**

**成果・課題等**

- ・植物・樹木に詳しい担当者が必要。季節ごとの解説やみどころを発信できる人が必要。適正な（生命力の強い樹種が繁茂）、伐採などの手入れが必要。
- ・本来の屋外展示とは全く変わってしまった箇所が多々みられ、また復元展示も荒廃し、キャプションは破損したままである。費用をかけて修復の必要である。
- ・子どもの日などでは、体験イベントで活用している。

### (2) 県民が参画した館の運営を進めます。

#### ア) 館の史資料を活用した自主学習の会の育成

県民参加の歴史館運営の一環として、館蔵史資料を使った愛好会活動が行える環境を整えます。

**評価： A**

**成果・課題等**

- ・古文書愛好会が館の文書の解説・翻刻をおこない、新収蔵古文書の整理にも携わっている。

#### イ) ボランティアの育成

展示案内、体験学習、史資料整理などの館活動へ参加するボランティアを育成し、ともに活動します。

**評価： A**

**成果・課題等**

- ・登録者数、実際に活動に参加していただける人が年々増加し、活動も活発になっている。
- ・文献史料の整理作業をボランティアの方にもお願いしている。

### (3) 人や情報が交流できる場とします。

#### ア) 来館者、ボランティア、館職員などの交流の実現

展示を観覧する、講座を受講するなどの受動的なあり方を転換し、積極的に参加、交流できるようにします。

**評価： B**

**成果・課題等**

- ・ボランティアと情報交換を行い、やりがいのある生涯学習の場を提供できている。

#### イ) 交流を実現するための空間や人員の確保

交流が実現するための交流室など、必要な条件を整備します。

**評価： B**

**成果・課題等**

- ・ボランティアルームはできたが、そこでの積極的な交流には至っていない。一方で、イベントや日曜解説、企画展オープニングセレモニーへの招待が交流の場となっている。

## 4 歴史情報センターとしての機能を果たします。

これからの歴史館の創造的発展をはかるためには、来館者を中心とした当館所蔵の史資料の利用に留まらず、お茶の間からも県内外の歴史資料情報が利用できる環境を整える必要があります。そのために、県内外関係機関との連携を進め、歴史情報データのネットワーク化、デジタル化を

進め、インターネットを通じて利用できる環境を整備します。

(1) 県内外諸機関との連携を進め、歴史情報を収集します。

ア) 県内外諸機関との連携

県の関係部局はもちろんのこと、県内外の関係諸機関と連携して活動します。

**評価： A**

**成果・課題等**

- ・ 県博協事務局として県内施設やイベント情報などの発信をしている。
- ・ 山梨県等、他県博物館との連携協定を締結して活動を開始した。

イ) 県内外の歴史情報の収集

長野県に関する歴史情報（県内外歴史雑誌掲載の歴史情報・市町村資料情報等）を集約します。

**評価： B**

**成果・課題等**

- ・ 歴史館ホームページを利用した発信を行っている。

(2) 歴史情報のネットワーク化を推進します。

ア) 歴史情報のデータベース化

集約した歴史情報をデータベース化し、関係機関と共有します。

**評価： B**

**成果・課題等**

- ・ 長野県史に掲載された県内遺跡データベース化が進められている。
- ・ 県内土偶のデータベース化が進められている。
- ・ IB ミュージアムは継続している。
- ・ 信濃史料、市河家文書などをデータベース化して公開している。

イ) 歴史情報のネットワーク化

県内外諸機関のデータベースとのネットワーク化をはかります。

**評価： B**

**成果・課題等**

- ・ 県立図書館等と情報ネットワーク化を進めている。

(3) デジタル・アーカイブを推進します。

ア) 史資料のデジタル化の推進

当館所蔵史資料及び市町村資料の所在情報のデジタル化をはかります。

**評価： A**

**成果・課題等**

- ・ 館蔵絵図・地図をデジタル化しホームページで公開している。
- ・ 館蔵長野県測量図を公益社団法人土木学会の協力・支援を受けてデジタル化している。

イ) インターネットを活用した情報の収集、提供

館ホームページを軸に、ネットを利用した歴史情報の収集、提供を実現します。

**評価： B**

**成果・課題等**

- ・ ブログやフェイスブックなども歴史情報の発信と考えられる。

## 目標の達成状況と今後の目標設定の方向性について

### I 達成状況と課題

○「新たな歴史館の創造をめざして—長野県立歴史館中長期目標（2009～）」において設定された目標については、年度毎に目標値を設定し取り組んできた。年度毎に行う自己評価、協議会評価において、概ね目標は達成されているとの評価がなされてきている。

今回は新たな中長期目標設定をしていくために、10年間の目標期間の活動実績に対する総括的な評価をおこなった。C 評価となった項目は、「常設展示での情報機器による提供」、「憩える場としての環境の整備」、「屋外展示の充実」であり、これらの項目については、今後目標達成のための方策を検討する必要がある。特に、「憩える場としての環境の整備」の項目においては、「子どもを対象とした新施設の建設」も視野に入れ、検討していくことが必要となる。なお、D 評価となった項目については、目標設定の見直しを含め検討する必要がある。

また、A及びBが付けられた項目についても、様々な側面より課題が出されており、今後更に高い次元での目標達成に向かって取り組んでいくことが求められる。

○「地域をもっと元気にプロジェクト」中期ビジョン(平成29年度～令和元年度)については、新たに示された『地域貢献型の歴史館』のビジョンに基づく事業を推進することができてきている。また、県民の学びを支える基礎体力の強化の側面でも、県内外の博物館・ケーブルテレビ・企業との連携を推進し、歴史館版「信州学」テキスト3巻の発行、信州ゆかりの資料の積極的な収集、老朽化した施設の改修等を積極的に進めた。

一方、目標年度を令和元年度とした、「信州の近現代の歩みを子どもたちに～常設展示に近現代コーナーを新設」のプロジェクトについては、基本構想を再度検討し実現を目指すこととなり、予定どおり計画を進めることができなかった。

包括外部監査において指摘されたように、人員の不足等に起因し、「埋蔵文化財センター的機能に関連する業務」、「公文書館機能に関連する業務」における業務の滞りがみられた。この点においても今後改善していく必要である。

### II 新たな中長期目標の設定にあたって

○「新たな歴史館の創造をめざして—長野県立歴史館中長期目標（2009～2018）」において、設定された使命・目標は、概ね妥当なものであり、基本的方向性は今後も継続していくべきものとする。新たな目標の設定については、総括的な評価を反映させ、現在の目標をブラッシュアップしたうえで、そこに、「県立歴史館（博物館機能）の今後のあり方について」（平成27年3月30日）、「地域をもっと元気にプロジェクト」中期ビジョン(平成29年度～令和元年度)で示された新たなビジョンを加え設定することが妥当であるとする。

特に、開館25年が経過し、次の時代においても県民に必要とされ、愛される歴史館となるために、次の点に留意して目標を設定していくことが必要である。1 常設展示のリニューアル、2 子どもを対象とした新施設の建設、3 企画展示室の充実、4 収蔵庫の増設、5 計画的な施設・設備のメンテナンス、6 職員体制の充実(増員、専門性の継承等)

なお、設定した目標については、毎年の具体的目標の設定、自己評価、協議会における評価というPDCAサイクルにつなげていくこと、また、中長期目標の達成年度は10年後の2029年と設定するが、5年後の2024年に中間総括を行い、PDCAサイクルにつなげていくことが必要であるとする。